

1. 学校の教育目標

建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を教育目標とし、グローバル時代・高度情報化時代に対応した「活躍力」を一人ひとりの生徒に身につけさせる。中学校は「手塩にかけた指導」、高等学校は「自律心を持った自立した生徒の育成」を教育の特徴とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) 人と組織の成長

- ①組織力・教師の教師力／人間力／教科指導力の向上
- ②教師の質の向上

(2) 教育イノベーション推進

- ①高校1年のコース別指導の徹底
- ②MGSの成績向上（特にSMGS奨学生）
- ③2021年中学校一貫教育の再設計
- ④本科のSDGs推進・探究活動推進

(3) 大学進学実績の向上・明星教育の質の向上

- ①高校3年生の進路指導（志望校合格）
- ②中学1年～高校2年までの学年主導の進路指導・教科指導
- ③各学年ミッションの実行（ミッションシート・ミッション面談運用）
- ④全学年GTZ(ベネッセ学力到達ゾーン)向上への具体的打ち手の深化

(4) 一貫教育の推進

- ①学内進学率の向上（小→中→高→大）
- ②高大接続の深化と進化（高大連携事業と明星大学進学数アップ）

(5) グローバル教育の充実

- ①ランドデザインの再設計と具体的打ち手の成果
- ②グローバル関連イベントの充実

(6) 入学広報戦略・戦術の深化・進化と入学者確保

- ①高校2021への対応
- ②中学2021への対応

(7) 新型コロナウイルス対策

- ①生徒・教職員の生命と健康を守る
- ②学校教育活動の維持
- ③ICTツールの有効活用
- ④生徒・保護者の支持

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 人と組織の成長	A	会議体の機能向上・学年団中心の機能的業務遂行
	A	組織意識の醸成・対応力の向上
(2) 教育イノベーションの推進	B	コロナ禍による計画・企画の未実行が多い
	A	Sゾーン8名、Aゾーン7名
	A	2021年中高一貫コースのスタート
	A	高校1年本科中心にSDGs活動を推進し高い成果と評価
(3) 大学進学実績の向上 明星教育の質の向上	A	国公立13、早慶上理4、GMARCH+関関同立89、明星大103
	B	学校閉鎖・遠隔授業等の影響があり確実な指導には至らなかった
	B	同上
(4) 一貫教育の推進	A	小中継続率75%、中高継続率92%
	A	ZOOM講座等の充実、明星大学進学者87名
(5) グローバル教育の充実	C	コロナ禍で国内で可能なものだけをトライ
	C	同上
(6) 入学広報戦略・戦術の深化・進化 入学者確保	A	本科新入生374、MGS新入生101 合計475 (目標420)
	A	特別選抜35、総合115 合計150 (目標140)
(7) 新型コロナウイルス感染症対策	A	感染症対策の徹底、状況変化への迅速な対応
	A	遠隔授業・対面/遠隔併用・授業日数の確保
	B	スキル・ツール・方略等の不均衡
	A	満足度アンケート肯定率70%以上 (学年で異なる)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
A	コロナ禍で未実行・未達成の項目があるが、年度当初から感染防止及び学校教育活動の確保に全教職員が一丸となって様々な対応に努力をしたこと及び大学合格目標達成・中高新入生目標達成できたことは高く評価できる。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
中高一貫教育の推進	魅力的で教育効果の高い教科シラバス・学年シラバス企画と実行体制構築
セグメント別教育体制の実効	教頭3人・校長補佐2人の役割分担、学年主任のマネジメント力向上施策
新学力観への教科指導	教科別研修の充実、シラバス確認会・教科分析会の実施
大学進学実績の向上	高校3年と進路の協働、明星大学との高大接続の充実の深化
教師力・指導力向上	継続的な研修体制と個別面談等の実施
コロナ禍&ポストコロナのグローバル教育	新視点でのグローバル教育の再構築
SDGs推進教育	学校全体の取組と学年・教科とのコラボレーション、生徒の巻き込み具体策
新型コロナウイルス感染症対策	的確な状況判断と迅速な対応